

March

SFP第二焦点面レティクル

取扱説明書

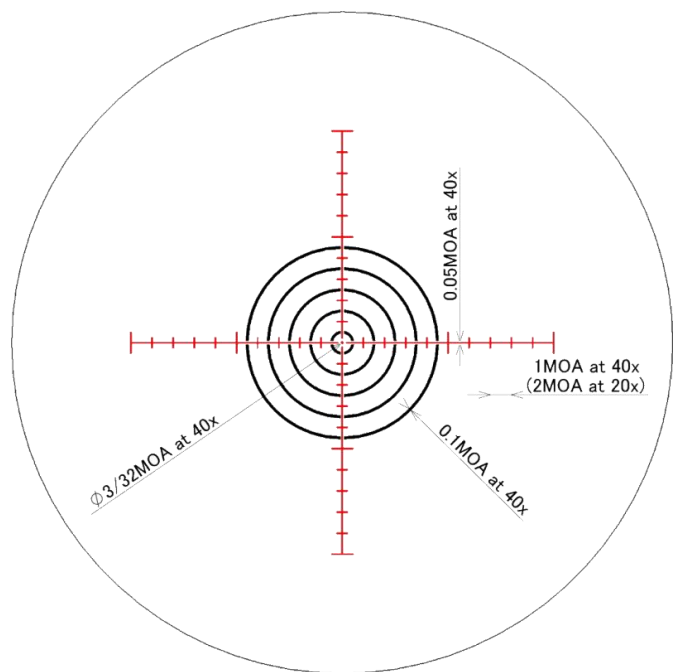
MTR-RTM Reticle (Round Target Match)



ディオン光学技研

MTR-RTM Reticle (Round Target Match)

MTR-RTMレティクルはSFP第二焦点面レティクルであるため、スコープの倍率を変えると標的の大きさのみが変わり、レティクルのサイズは変わることはありません。レティクルと円形標的(Round Target)との間に隙間を作り、その隙間を見ながら射撃できるよう開発された競技専用レティクルです。ISSF競技50m及び300m、Fクラス射撃競技やその他の円形標的を用いる大会で幅広くご活用頂けます。



MTR-RTMレティクルは5つの円、縦横の十字線、及び3/32MOA中心ドットから構成されています。イルミネーション点灯時には十字線とセンタードットが赤く光り、明るさは4段階で調整が行えます。スコープの倍率調整により標的の大きさを変えて、レティクルの円と標的との間に出来た隙間を用いた撃ち方だけではなく、縦横の十字線を利用した撃ち方も可能です。十字線を使用してスコープが水平かの確認にもお使い頂けます。5つの円は太すぎないため標的と重なった円は目立たず、標的の外側に見える円も視界をさほど妨げません。お好みの倍率で、標的のサイズを変えて、使用しやすい円に合わせて隙間をご調整ください。

十字線の1目盛りは、40倍では1MOA/20倍では2MOAとなり、風読みをしなければならない競技において迅速に対応する際には、ウィンデージダイヤルを操作する余裕もないため、レティクルを使用しての射撃にお使い頂けます。また時間的余裕が無い時だけではなく、撃つ度にウィンデージダイヤルを回したく無い場合も同様にレティクルを用いた射撃にご利用可能です。

射撃距離及び各倍率によるレティクルの見え方については次ページ以降をご参照ください。

* ISSFレギュレーション及びFクラスレギュレーションICFRAに沿って標的黒点部のサイズを算出しています。

MTR-RTMレティクルは、レティクルの円と標的との間の隙間を射手の好みに調整することを目的としています。

国によって採用するレギュレーションが下記と異なる場合は、次ページ以降のイメージ図は参照情報としてください。

ISSF : <https://www.issf-sports.org/getfile.aspx?mod=docf&pane=1&inst=458&file=1.%20ISSF%20General%20Technical%20Rules.pdf>

F class : ICFRA https://e1e1515b-f062-426d-8b3c-6c508be9b8a2.filesusr.com/ugd/d54b0a_ce5f1a8a7d314d4e927c2d1d5236aae5.pdf

ISSF 50m

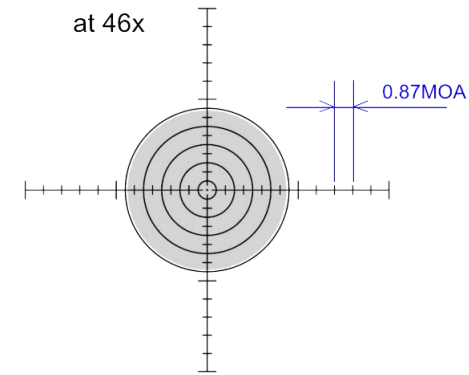
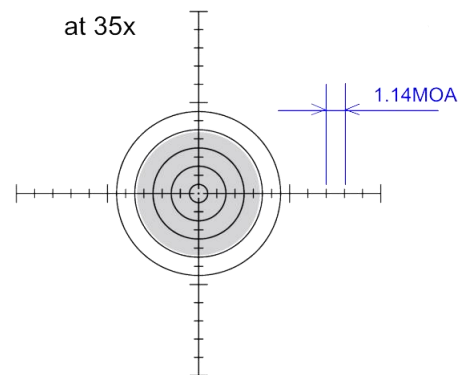
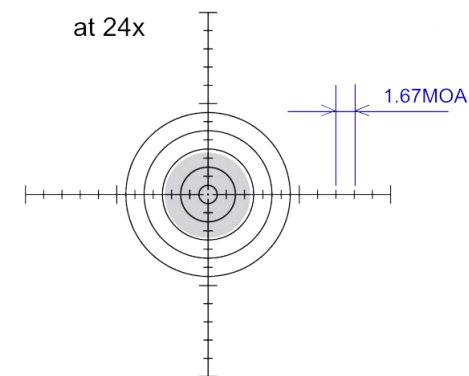
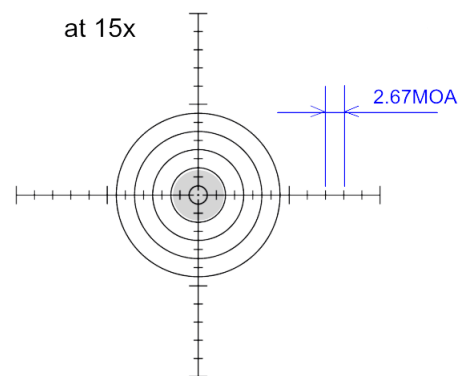
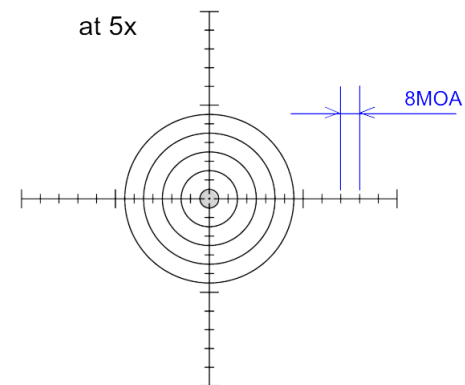
Black form 3 to 10 rings = 112.4mm (ϕ 7.73MOA)

スコープの倍率を変えると標的の大きさのみが変わります。レティクルのサイズは常に一定で、変わることはありません。これらの図において、灰色部分は各倍率におけるISSF50m標的の5～10点圏内を表します。

記載されている倍率より下げると標的の大きさが小さくなりレティクルとの間に隙間ができます。

記載されている倍率より下げると標的の大きさが小さくなりレティクルとの間に隙間ができます。例えば46倍ではレティクルと標的が一致していますが、倍率を40倍に下げると標的が小さくなり、一番外側の円とレティクルとの間に隙間ができます。

尚、イルミネーションを点灯すると十字線とセンタードットは赤く光ります。十字線の目盛りを用いて計算する場合は、倍率によって1目盛りの値が異なりますのでご注意ください。1目盛りは40倍では1MOA、20倍では2MOAですが、それ以外については図内の青い数値をご参照ください。尚、「40倍÷使用倍率」と計算すると、使用倍率における1目盛りを算出できます。



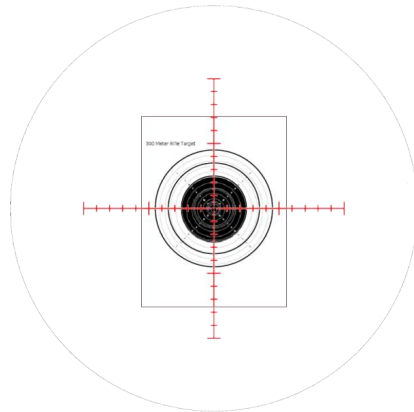
ISSF 300m

Black form 5 to 10 rings = 600mm (ϕ 6.88MOA)

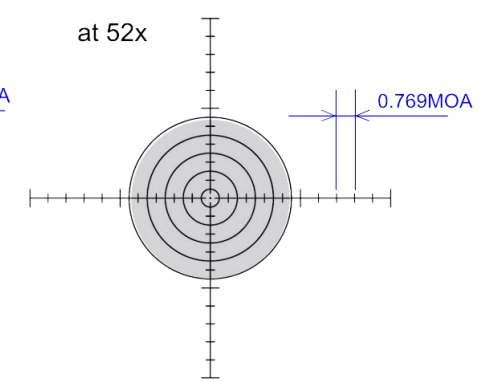
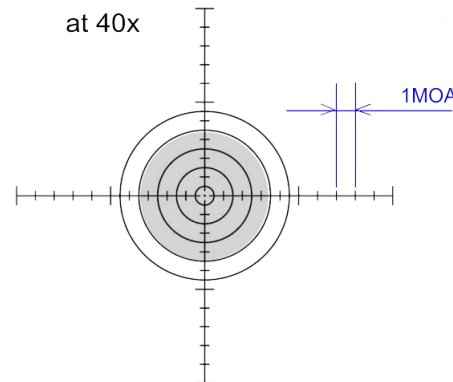
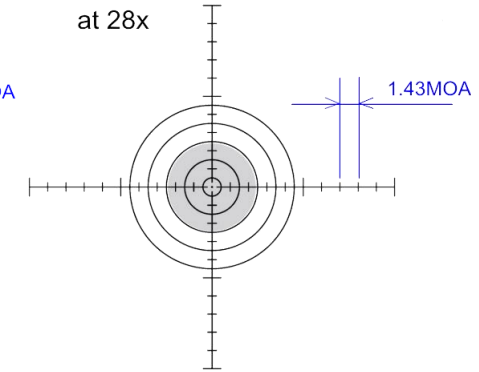
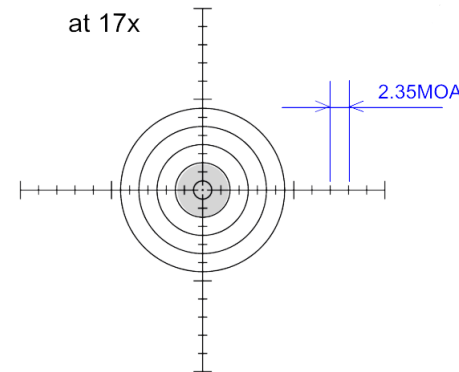
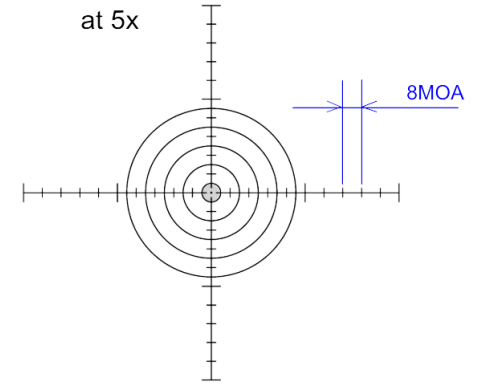
スコープの倍率を変えると標的の大きさのみが変わります。レティクルのサイズは常に一定で、変わることはありません。これらの図において、灰色部分は各倍率におけるISSF300m標的の5～10点圏内を表します。

記載されている倍率より下げると標的の大きさが小さくなりレティクルとの間に隙間ができます。例えば52倍ではレティクルと標的が一致していますが、倍率を45倍に下げると標的が小さくなり、一番外側の円とレティクルとの間に隙間ができます。尚、イルミネーションを点灯すると十字線とセンタードットは赤く光ります。十字線の目盛りを用いて計算する場合は、倍率によって1目盛りの値が異なりますのでご注意ください。

1目盛りは 40倍では 1 MOA、20倍では 2MOA ですが、それ以外については図内の青い数値をご参照ください。尚、「40倍 ÷ 使用倍率」と計算すると、使用倍率における1目盛りを算出できます。



28倍 イルミネーション使用時

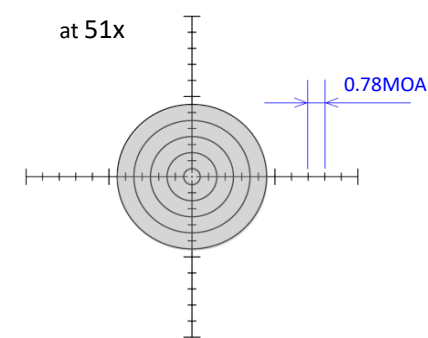
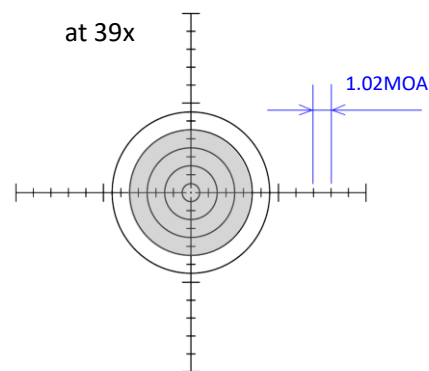
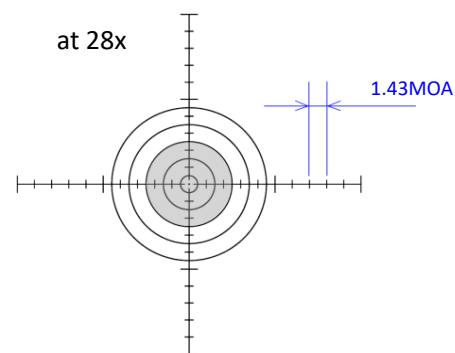
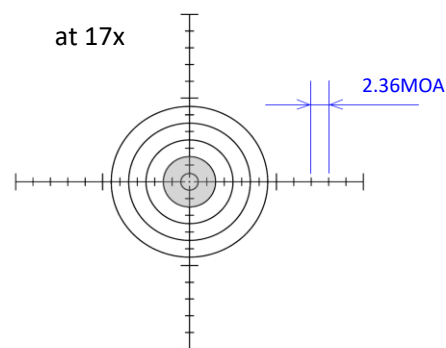
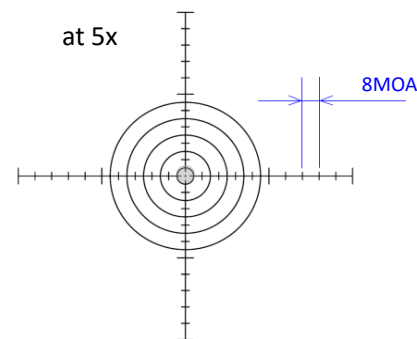


F-Class 300yards

Black form = 560mm (ϕ 7.02MOA)

スコープの倍率を変えると標的の大きさのみが変わります。レティクルのサイズは常に一定で、変わることはありません。これらの図において、灰色部分は各倍率におけるFクラス300yard標的の黒点部を表します。

記載されている倍率より下げると標的の大きさが小さくなりレティクルとの間に隙間ができます。例えば51倍ではレティクルと標的が一致していますが、倍率を45倍に下げると標的が小さくなり、一番外側の円とレティクルとの間に隙間ができます。イルミネーションを点灯すると十字線とセンタードットは赤く光ります。風読みをしなければならない競技において迅速に対応する際には、ウィンテージダイヤルを操作する余裕もないため、レティクルを使用しての射撃にお使頂けます。撃つ度にウィンテージダイヤルを回したく無い場合も同様にレティクルを用いた射撃にご利用可能です。十字線の目盛りを用いて計算する場合は、倍率によって1目盛りの値が異なりますのでご注意ください。1目盛りは40倍では1MOA、20倍では2MOAですが、それ以外については図内の青い数値をご参照ください。尚、「40倍÷使用倍率」と計算すると、使用倍率における1目盛りを算出できます。



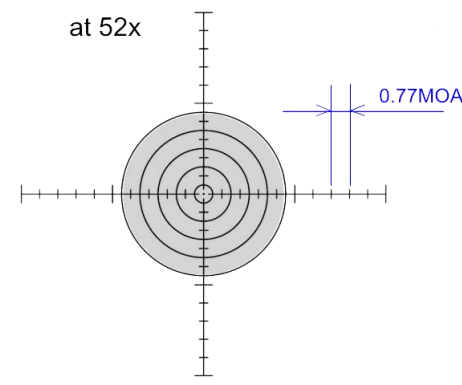
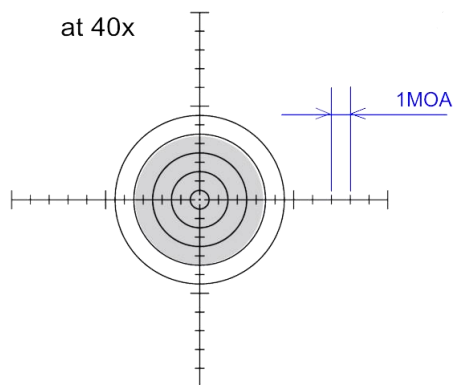
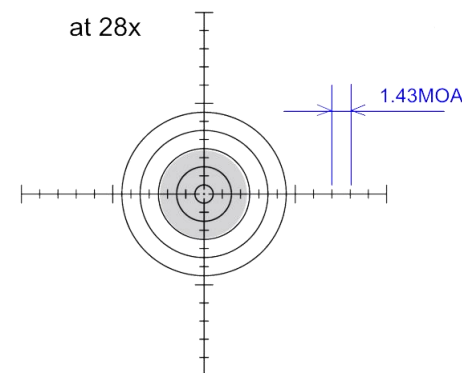
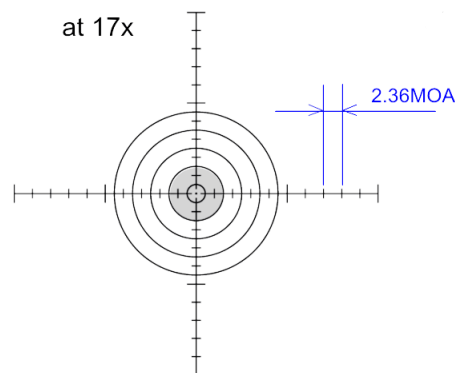
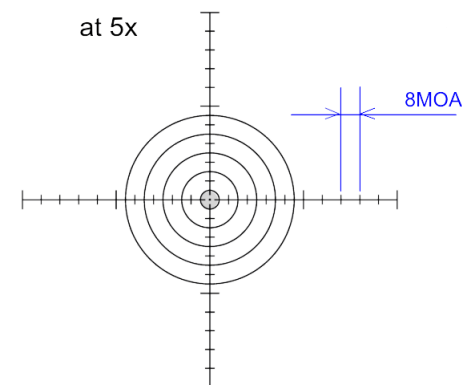
F-Class 500yards

Black form = 915mm (ϕ 6.88MOA)

スコープの倍率を変えると標的の大きさのみが変わります。レティクルのサイズは常に一定で、変わることはありません。これらの図において、灰色部分は各倍率におけるFクラス500yard標的の黒点部を表します。

記載されている倍率より下げると標的の大きさが小さくなりレティクルとの間に隙間ができます。例えば52倍ではレティクルと標的が一致していますが、倍率を45倍に下げると標的が大きくなり、一番外側の円とレティクルとの間に隙間ができます。イルミネーションを点灯すると十字線とセンタードットは赤く光ります。風読みをしなければならない競技において迅速に対応する際には、ウィンテージダイヤルを操作する余裕もないため、レティクルを使用しての射撃にお使頂けます。撃つ度にウィンテージダイヤルを回したく無い場合も同様にレティクルを用いた射撃にご利用可能です。

十字線の目盛りを用いて計算する場合は、倍率によって1目盛りの値が異なりますのでご注意ください。1目盛りは40倍では1MOA、20倍では2MOAですが、それ以外については図内の青い数値をご参照ください。尚、「40倍÷使用倍率」と計算すると、使用倍率における1目盛りを算出できます。



F-Class 800yards

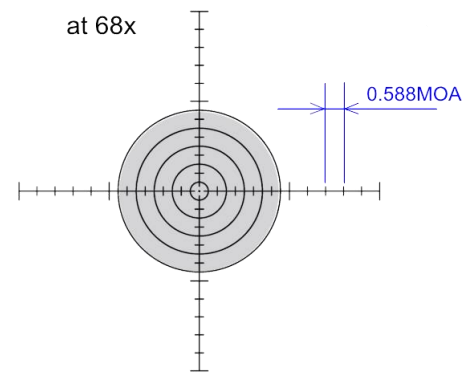
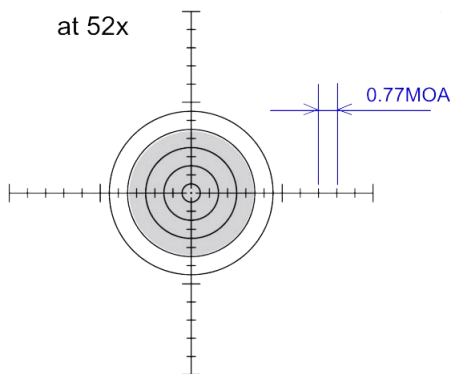
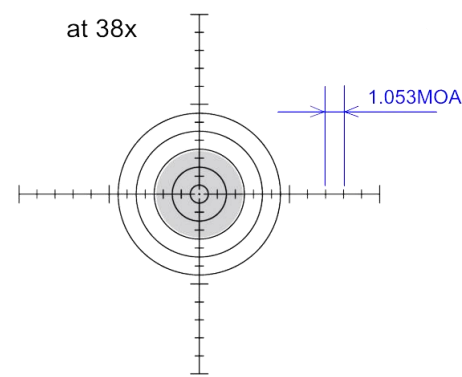
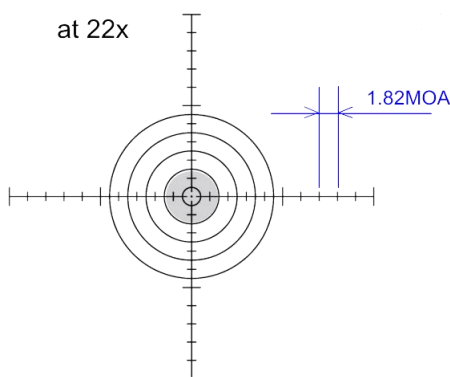
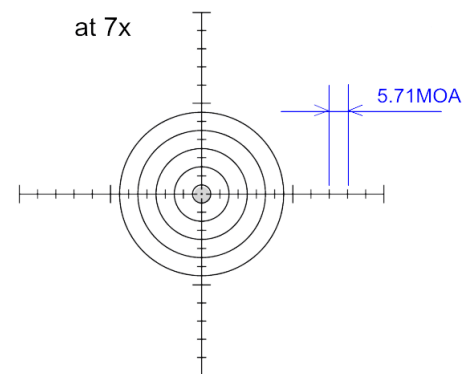
Black form = 1120mm (ϕ 5.26MOA)

スコープの倍率を変えると標的の大きさのみが変わります。レティクルのサイズは常に一定で、変わることはありません。これらの図において、灰色部分は各倍率におけるFクラス800yard標的の黒点部を表します。

記載されている倍率より下げると標的の大きさが小さくなりレティクルとの間に隙間ができます。例えば68倍ではレティクルと標的が一致していますが、倍率を60倍に下げると標的が小さくなり、一番外側の円とレティクルとの間に隙間ができます。イルミネーションを点灯すると十字線とセンタードットは赤く光ります。

風読みをしなければならない競技において迅速に対応する際には、ウィンデージダイヤルを操作する余裕もないため、レティクルを使用しての射撃にお使頂けます。撃つ度にウィンデージダイヤルを回したく無い場合も同様にレティクルを用いた射撃にご利用可能です。

十字線の見盛りを用いて計算する場合は、倍率によって1目盛りの値が異なりますのでご注意ください。1目盛りは40倍では1MOA、20倍では2MOAですが、それ以外については図内の青い数値をご参照ください。尚、「40倍÷使用倍率」と計算すると、使用倍率における1目盛りを算出できます。



F-Class 1000yards

Black form = 1120mm (ϕ 4.21MOA)

スコープの倍率を変えると標的の大きさのみが変わります。レティクルのサイズは常に一定で、変わることはありません。これらの図において、灰色部分は各倍率におけるFクラス1000yard標的の黒点部を表します。

記載されている倍率より下げると標的の大きさが小さくなりレティクルとの間に隙間ができます。例えば80倍ではレティクルと標的が一致していますが、倍率を70倍に下げると標的が小さくなり、一番外側の円とレティクルとの間に隙間ができます。イルミネーションを点灯すると十字線とセンタードットは赤く光ります。

風読みをしなければならない競技において迅速に対応する際には、ウィンデージダイヤルを操作する余裕もないため、レティクルを使用しての射撃にお使頂けます。撃つ度にウィンデージダイヤルを回したく無い場合も同様にレティクルを用いた射撃にご利用可能です。

十字線の見盛りを用いて計算する場合は、倍率によって見盛りが異なりますのでご注意ください。1目盛りは40倍では1MOA、20倍では2MOAですが、それ以外については図内の青い数値をご参照ください。尚、「40倍÷使用倍率」と計算すると、使用倍率における1目盛りを算出できます。

